

■詳細情報

「カトリック仁豊野ヴィラ」(姫路市仁豊野 900)

教区および男女修道・宣教会が共同で出資及び運営責任を担い、高齢司祭・修道女たちが過ごす施設

開設：2000年4月

定員：30名(個室22室 4人部屋×2)

対象者：教区司祭、男女修道者

形態：介護保険制度で言えば、施設ではなく在宅の一形態(高齢者が集合的に住む家)

運営：10法人(5女子修道会+大阪教区+京都教区+御受難会+パリミッション+フランシスコ会)

環境：姫路マリア病院(総合病院)、小教区教会に隣接

設立の背景と趣旨：

様々な形で日本社会のなかで貢献をされてきた司祭・宣教者の多くが老年期を迎えている。海外から日本へ来て「日本で一生を終えたい」と思いながらも、介護の負担をかけるのが嫌で本国へ帰国した人も何人もいた。また、高齢司祭の面倒を同教区の若い司祭や信者たちがみてきたが、介護する側も高齢化してきており、老老介護となったり介護施設で生活するようなケースが散見され、シスターたちも同様である。

そのような現状の中、高齢司祭・男女修道者たちを、尊厳をもって亡くなるまでケアする目的で設立された。

介護保険制度の導入も検討されたが、同法による施設であれば信者ではない一般の方も受け入れることになる。また、病院や老人保健施設のように入居期間が限定されてしまうことも問題。だがそれでは設立の趣旨とかけ離れてしまうため、同施設は、司祭・修道女たちの共同生活の場と位置付けて、介護保険制度に依らず在宅の一形態(高齢者が集合的に住む家)として、教区・法人等が資金を出し管理運営することになった。

運営上の問題が露呈

- ・ 入居者数が少なかった。女子修道者が司祭(男性)と同じ空間で生活する体験が無く、利用を躊躇した。
- ・ 利用料を当初介護度に関係なく一律20万円としたが、利用者数が増えないので経営が厳しくなった。
- ・ 10の法人で民主的な運営をしたが、専門職が不在で決定に時間がかかりすぎた。

運営方法の改善(2009～2014)

- ・ 重度か否か、認知症等の行動障害があっても入院の必要性がなければ直ぐに受け入れる体制とした。経験のある介護職を常勤雇用した。
- ・ 要介護度に合わせて生活費規定を改めた。
- ・ 一般介護施設に移行する方法を検討した。

- ・ 女性の視点で分析、可能な限り改造した。
- ・ 高齢化したシスターに代わり信徒が(施設長や派遣シスター達によって人的に支えてきた役割を)引き継ぐ。

新たなニーズ

- ・ 老いを福音的に生きる。
- ・ 教区が関わることによって超修道会を実現する

信徒も入居できる施設を作ろう！ 「ドムス・ガラシア」

- ・ サービス付き高齢者専用住宅+医療+介護サービス一体化構想
- ・ 関西カトリック医療+介護資源一体化運用計画
- ・ 主に信徒、女子修道会の介護問題解決

株式会社ガラシア WING (2018年4月設立予定)

- ・ 大阪教区、大阪ヨゼフ会、ガラシア病院が出資し、信徒が中心となって修道会の高齢介護問題を解決するために株式会社を設立。
- ・ 拠点となる尼崎市園田地区に、医療法人ガラシア会のクリニック開設を目指す。
- ・ 同所で医療と介護業務を一括運営し、男女修道会のニーズに信徒が応える仕組みを構築し、全国の同様のニーズに応えるモデル事業と位置づけ、そのノウハウを伝える。

「ドムス・ガラシア」対象者

- ・ 女子修道者
- ・ 司祭、修道士
- ・ カテキスタ
- ・ 信徒
- ・ 司祭修道者の両親

関西広域圏で、カトリック医療+介護資源を司祭・修道者介護のために一体的に運用する。

茨城に高齢信徒と司祭、シスターが暮らせる「街」をどのように造るか？濱口施設長からの問題提起

- ・ 医療、福祉、介護、マネジメントの専門職が協働する。→高齢化する司祭を信徒が支える。
 - ・ 対象：信徒、男女修道者、司祭、一般人
 - ・ 司祭：元々収入が少なく、年金も少額、宣教師は無年金→介護費用をどのように捻出？
-